

# 地域未来学科の特長

## Point 01 3学部の連携教育

地域未来学科を軸として、国際学部や医療保健科学部と連携を図り、地域社会の発展や現代社会の課題解決の実現に貢献できる人材を養成します。

地域で活性化をリードできる総合力を習得



## Point 02 地域活性の中核コーディネーターを目指す。

課題解決先進地域である北海道の教育・社会・ビジネス・観光など、授業で身につけた幅広い分野の専門知識を、地域活性プロジェクトやフィールドワークに活用することで、課題解決の実現に役立つ多角的な視点を学びます。

## Point 03 地域社会をグローバルな視点で学び、魅力を発信。

地域創生を考えるうえで重要となるのは、歴史・食・文化をグローバルな視点で捉えることです。地域理解・国際理解を深め、地域の新たな価値を創造し発展させるための企画力、実践力、発信力を養います。

## Point 04 地域・自治体・企業との課題解決型授業を開講。

本学が包括連携協定を結ぶ50団体以上の協定先を中心に、北海道内外の自治体や企業と実施する調査活動やインターンシップなどを通して、地域社会における諸課題を発見し、解決する力を習得します。

### 身につける能力

- 地域に存在するさまざまな課題を「発見する力」「分析する力」「解決する力」
- 諸課題を解決するための幅広い「専門的知識」「技能」
- 多様な他者との共存・共生を推進する「コミュニケーション力」「協働力」「調整力」

### 想定される卒業後の進路

- 地域で活性化をリードできる人材として、幅広い卒業後の進路が想定されます。
- 国家公務員 ■ 地方公務員 ■ 公団等の特殊法人
  - 各種財団/地方独立行政法人 ■ NGO/NPO
  - 各種社会教育施設職員(公民館、図書館、博物館等)
  - 民間企業 ■ 学校法人教職員 など

# 北海道文教大学は、専門性の高い総合大学へ。

人間科学部地域未来学科の新設により、多様な学生が集う総合大学としての魅力が進化。充実したキャンパスライフやキャリア選択を可能にする大学づくりを今後も進めていきます。

Close Up!

## 札幌や新千歳空港からも近いキャンパス

恵庭市に位置する北海道文教大学。近くには駅・空港・高速道路があり、アクセスに恵まれています。また、本学は恵庭市と連携し、地域のハブとして機能しているため、地域での学習にも適した環境となっていることも特長です。

- ▶ JR札幌駅→JR恵庭駅 約24分
- ▶ JR新千歳空港駅→JR恵庭駅 約12分
- ▶ JR恵庭駅→キャンパス 徒歩約8分



Close Up!

## 開学以来高い就職率 & 個別のキャリア支援

1年次から就職オリエンテーションをスタート。個別面談などを通して一人ひとりの将来像を明確にし、納得のいく進路実現をサポートしていくのが北海道文教大学の支援スタイルです。その成果として高い就職実績を実現しています。(2022年3月卒業生実績:就職率99.2%/就職者396名)



**入試 Information** 地域未来学科の特長に応じた「新しい入試」を計画中。ご注目ください。

**OPEN CAMPUS** 6/18(日) 7/30(日) 8/20(日) 9/17(日) 10/8(日) 12/17(日)  
日程やプログラムなどの詳細は大学ホームページをご確認ください。

活かす人へ  
北海道文教大学

- [ 人間科学部 ] ▶ 地域未来学科 (2024年4月新設/設置届出中) 内容に変更が生じる場合があります。▶ 健康栄養学科 ▶ 子ども発達学科
- [ 国際学部 ] ▶ 国際教養学科 ▶ 国際コミュニケーション学科
- [ 医療保健科学部 ] ▶ 看護学科 ▶ リハビリテーション学科

〒061-1449 北海道恵庭市黄金中央5丁目196番地の1  
▶「恵庭駅」東口から徒歩約8分 [問い合わせ先] 入試広報課 0123-34-0160

<https://www.do-bunkyo-dai.ac.jp/>



大学ホームページは  
こちら  
※機種によっては読み取れない場合があります



# 魅力あふれる北海道を活かす。



人間科学部  
地域未来学科

2024年4月新設

設置届出中。内容に変更が生じる場合があります。

活かす人へ  
北海道文教大学



2024年4月

# 北海道をますます元気にする「地域未来学科」がスタート。

「地元を元気にする方法を学びたい」、「地域に貢献できる自分になりたい」。

そんな想いを抱く人に向けて、私たち北海道文教大学は

「地域未来学科(2024年4月新設/設置届出中<sup>※</sup>)」という選択肢を用意します。

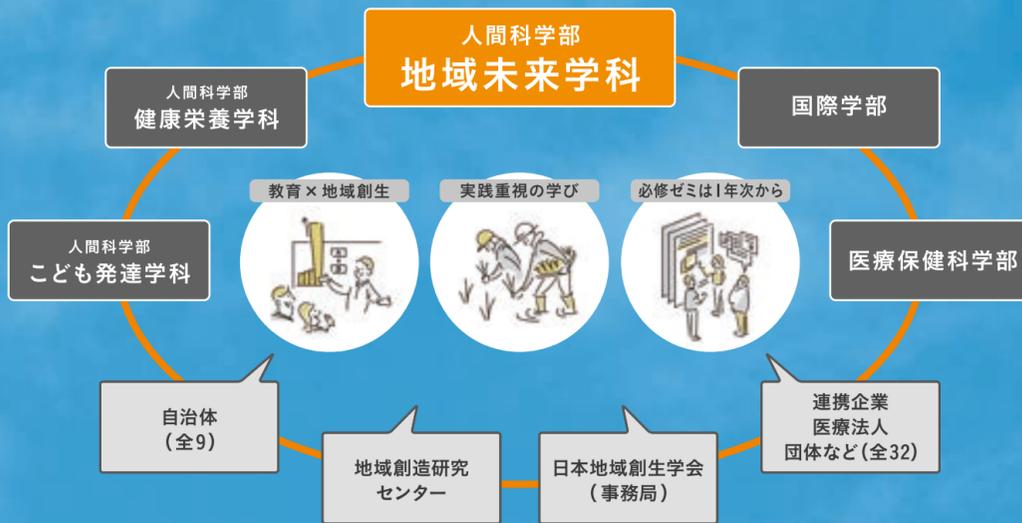
1942年北海道栄養女子学校設立後、学校法人鶴岡学園により北海道文教大学が誕生し、人々の暮らしを豊かにしたいという使命感から進化してきました。

その精神を象徴する人間科学部に新しく加わる地域未来学科の特長は、

「地域の活性化に貢献できる“活かす人”の育成」に特化した実学教育を行うこと。

時代の変化に対応し、あらゆる課題の解決に生きる実践力を養います。

※内容に変更が生じる場合があります。



地域を活かす人へ

地域未来学科

# 新しい北海道を発見したい。

授業では北海道各地域の知られざる魅力に注目し、自治体や企業との共同プロジェクトや現地でのフィールドワークを通して、さらに地域を活性化させていくための企画立案や提案などに取り組む予定です。

The map highlights several key areas:
 

- 食料不足 (Food Shortage):** 北海道の食料自給率は全国トップクラス。今後の日本を支える台所として、もっと安定供給に貢献できると思う。
- 地方創生 (Regional Revitalization):** 北海道は食の宝庫。誇れる道産品も多い。世界にもっと魅力を発信すれば、地域経済は盛り上がるはず。
- スマート農業を推進 (Promote Smart Agriculture):** スマート農業を推進すれば、多くの野菜や果物を効率的に生産できるし、北海道で農業に就きたい人も全国から集まるのでは？
- 少子高齢化 (Low Birth Rates and Aging Population):** 大自然に囲まれた北海道は、暮らしや子育てに適している。移住者を増やすことも、地域の活性化につながると思う。
- ロボットやAIを活用 (Utilize Robots and AI):** ロボットやAIを活用すれば、北海道が誇る産業はさらに発展し、新たな雇用が生まれて地元で働き続ける若者も増えるはず。
- 医療の高度化 (Advanced Medical Care):** オンラインで医療サービスが受けられる時代。北海道全域に遠隔医療を普及させて医療と保健を担う人を育てる。
- 労働人口減少 (Decreasing Labor Population):** 労働人口減少
- 経済構造の変化 (Economic Structure Change):** 経済構造の変化
- 地方創生 (Regional Revitalization):** 野球、サッカー、ホッケー、スケートボード、カーリング。さまざまなスポーツによる町おこしができることも北海道の強み。
- 食料不足 (Food Shortage):** 食料不足
- 少子高齢化 (Low Birth Rates and Aging Population):** 少子高齢化
- 労働人口減少 (Decreasing Labor Population):** 労働人口減少
- 医療の高度化 (Advanced Medical Care):** 医療の高度化

海、山、湖、島。北海道は自然豊かで春夏秋冬楽しめる。世界有数のリゾート地になり得る。ポテンシャルは高い。

スタートしている産学連携プロジェクト

**「炊き込みご飯の素」を共同開発**  
 【北海道文教大学×株式会社北海道アイ】  
 北海道のおいしい食品や食文化を発信している企業とコラボレーションし、人間科学部健康栄養学科が『北海道のホタテを使ったバリエーション風炊き込みご飯の素』を共同開発。地元情報誌でも紹介されました。

**「食と健康」レシピコンテストを開催**  
 【北海道文教大学×ラルズ×北海道味の素】  
 地域の栄養課題の解決をめざし、産学連携で人間科学部健康栄養学科の学生による健康レシピの開発が行われています。2022年度は「うま味やだしをきかせた“おいしい減塩”」をテーマにコンテストが開催されました。

**「みんなでつくったレモン×100レシピ」**  
 【北海道文教大学×ポッカサッポロ北海道】  
 本学が包括連携協定を結ぶ同社の商品『ポッカレモン100』を使用し、レシピ100種類を掲載したレシピブックを共同制作。公募コンテストでは人間科学部健康栄養学科の学生3名が最優秀賞や優秀賞に選ばれました。

地域で活躍する卒業生

**子どもたちが誇れる町であってほしい。**  
 【向井 凌介 / 恵庭市立和光小学校勤務】  
 教員を務めながら感じていたのは、誇れる地域づくりに取り組める人材を養成する場の必要性です。地域未来学科の新設には大いに期待しており、子どもたちが学生と一緒に町を盛り上げてくれることを楽しみにしています。